

ソロスのファンドと市場の変化

ジョージ・ソロスのクアンタムファンドが外部の資金の運用を止める。理由は一つには、米国でヘッジファンドの規制が厳しくなること、外部資金の運用をするヘッジファンドは SEC に登録しなくてはならない。もう一つは市場が読みにくくなったことだという。事実今年は損をしている。

ただほとんどのヘッジファンドが損失を被った08年は8%のリターン、09年は28%のリターンと、金融危機後のパフォーマンスは優れたものだ。

ソロスのファンドと言え、外為市場では92年のポンド危機でのポンド売りが思い出される。ソロスによれば100億ドル相当のポンドを売った。イングランド銀行がさらにポンドを買い支えれば、自分をもっと売るつもりだったと回想した。ポンドは、中央銀行のポンド買いや利上げなどの防衛策にもかかわらず、ERM から離脱せざるを得なかった。そこでソロスはイングランド銀行を倒した男として名を馳せた。

ソロスは欧州での勢いを買って、その後円にも手を出したが、円の為替はうまくいかなかった。円の場合は、実需の影響が比較的強く、投機為替も実需に影響される点をあまり考慮していなかった。

この世界で長期間良いパフォーマンスを上げ続けることは容易ではない。一定期間飛びぬけた成績を示した手法や考え方が、次の局面に通じなくなる。市場は変化するからだ。

例えば現在の円高の要因の一つである市場のリスク許容度の低下による買い、つまり円の避難通貨としての役割がこれほど長く続くことはなかった。これまでは一時的で、その後反転するのが常だった。それが金融危機以降変わった。

こうした変化に鈍感になると、成功体験の有る者ほどドツぼにはまり込む。

ソロスのファンドは73年以来350億ドルのリターンを上げてきた。ソロス自身は社会福祉活動に重点を置く時期もあり、今日まで継続的に市場に注力してきたわけではないが、これほど長期間、時代を超えてよいパフォーマンスを残したファンドは多くない。

今後は自らの資金の運用だけになるようだが、大きな損失を被る前に投資家に資金を返した相場観はさすがと言うほかはない。